

＜校務利用＞ ①朝会講話のアイデア出し＜小学 1年生にも分かりやすい「生活目標」の伝え方＞

目的	小学1年生にも分かりやすい生活目標「互いの意見を大切にして話し合おう」の伝え方。
生成AI	Gemini

＜プロンプト＞

あなたは小学校の先生です。「互いの意見を大切にして話し合おう」を小学校1年生にも分かるように説明してください。

＜考察＞

子どもたちの身近な体験と結びつけることが大切であるというアドバイスと共に、具体例として「みんなでアイスを選ぶ場面」が提案された。実際に、提案された内容で伝えたところ、児童の反応が良かった。具体例がいくつか紹介されたことで、「小学1年生にも分かりやすい」の目的に沿ったものを選択することができた。

＜生成物＞

◆ 小学校1年生に「互いの意見を大切にして話し合おう」を説明する方法

小学校1年生に「互いの意見を大切にして話し合おう」という少し難しい概念を伝えるためには、**具体的な例**をたくさん挙げながら、**子どもたちの身近な体験**と結びつけることが大切です。

説明のポイント

- **言葉を選ぶ**: 難しい言葉は避け、子どもたちが理解しやすい言葉で説明しましょう。「意見」という言葉は難しいので、「自分の考え」という言葉に置き換えてもいいですね。
- **比喻を使う**: 食べ物や遊びなど、子どもたちがよく知っているものに例えて説明すると、イメージしやすくなります。
- **ロールプレイ**: 実際に子どもたち同士で話し合いを演じさせて、具体的な状況を体験させましょう。
- **絵や図を活用**: 図やイラストを使うことで、視覚的に理解を深めることができます。

説明例

1. みんなでアイスを選ぶ場面

「みんなが大好きなアイス屋さんに行ったとしよう。みんなはどんな味のアイスが食べたいかな？ ストロベリー？ チョコ？ バニラ？ みんな違うアイスが食べたいよね。でも、みんなで一つだけ選ぶとしたら、どうすればいいかな？」

- **みんなが好きなものが違うことを理解させます。**
- **話し合って決めることの大切さを伝えます。**

<教育利用> ③生成AIを使った文章の推敲～小学5年生・国語～

【小学5年生】 国語「文章に説得力をもたせるには」	
目的	生成AIで文章推敲を行い、説得力のある論の展開の仕方を習得すること。 (生成AI活用第1回)
生成AI	みんなで生成AIコース
内容	単元:「文章に説得力をもたせるには」 ①前時に「毎日安全に過ごすための方法」についての意見文を各児童が作成。 ②一度書いた文章を教師がプロンプトを用意し、そのプロンプト内に自身が書いた文章をはめ込む。 ③修正したポイント等に留意し、再度文章の修正を行う。
考察	生成AIを活用したメリット ①児童一人ひとりに合わせたフィードバックが瞬時に可能になった。 ②教師の主観ではなく、より客観的視点での評価となる。 ③AIが提示する新たな表現や言葉に触れることで、児童は自分の表現の幅を広げることができた。 ④プロンプトに「主張」「根拠」「まとめ」に留意する視点を盛り込むことで、より説得力のある文章を書くという当初の目的も達成できる手立てになっていた。

<プロンプト>

生成AIの導入期の授業であったため、プロンプトは教師が指示したものを活用。

みんなで生成AIコース用URL
【授業コード】
【今日の授業のプロンプト例】
以下は小学5年生が書いた「安全に生活するために気をつけること」がテーマの意見文です。「主張」「根拠」「まとめ」の文章の構成で、より読み手に納得してもらえるように修正してください。また、修正のポイントも教えてください。(書いた文章)

※文章の作成を1からAIに作成させるなどの行為は行わないでください。

砂原小学校5年2組 | みんな...
<https://aichat.proguru.jp/cl/suna>

<児童の画面>

さんのチャットを閲覧しています

以下は小学5年生が書いた「安全に生活するために気をつけること」がテーマの意見文です。「主張」「根拠」「まとめ」の文章の構成で、より読み手に納得してもらえるように修正してください。また、修正のポイントも教えてください。「毎日安全に過ごすためには、いざというときに助けてくれる人、避難できる場所を確保しておくことが大切です。わたしは、そのために、近所の人とすれ違ったら、挨拶したりすることが必要だと考える。私が下校しているとき、怪しい人が私の後ろをついてきていた。もうすぐ家につくので、どう逃げようか考えていたとき、近所の人々が散歩をしていたので、その人に事情を話して、家族のふりをしてもらったら、怪しい人は逃げていったのだ。このように、いざというときに助けてくれる人や避難できる場所を確保しておく、安全なのだ。私達が危険にさらされたとき、身を守るように、助けてくれる人、避難できる場所を確保しておきたい。そのために、すれ違った近所の人に挨拶して、仲良くなっておくことが必要だ。」

左記の形式で、教師の書いたプロンプト内に、自身のプロンプトを記入する。

<児童の画面>

家が近くなったところで不安になり、どう逃げようか考えていたとき、近所の方が散歩をしているのを見つけた。その方に事情を話し、家族のふりをしてもらったところ、怪しい人はすぐに逃げました。この経験から、近所の人とのつながりがいざというときにどれほど助けになるかを実感しました。

私たちが危険にさらされたとき、身を守るためには、信頼できる助けてくれる人や避難できる場所を確保しておくことが必要です。そのために、すれ違った近所の人に挨拶をし、関係を深めておくことが大切だと思います。みんなが安全に過ごせるように、コミュニケーションを大切にしましょう。

修正のポイント

- 1.主張の明確化: 初めに「安全に過ごすためには」というフレーズを繰り返し、主張を強調しました。
- 2.具体的な例の構成: 体験談を具体的に説明し、読者が状況をイメージしやすいようにしました。
- 3.論理的な流れの強化: 「実際に」や「この経験から」といった接続

推敲だけでなく、修正点のポイントも表示するように指示しているため、児童もどのような視点で推敲が行われたのか把握しやすくなっている。